

## 文教常任委員会委員会調査報告書

令和6年8月19日（月）から21日（水）まで、福岡県立久留米高等学校外3か所において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別添のとおりでした。

### 【調査事件】

県立学校等に関する事項について

令和7年1月21日

神奈川県議会議長 柳 下 剛 様

文教常任委員会委員長 望 月 聖 子

## 1 調査の概要

### (1) 調査日程

令和6年8月19日（月）から21日（水）まで

### (2) 調査箇所

- ア 福岡県立久留米高等学校（福岡県久留米市西町482）
- イ 福岡県立鞍手高等学校（福岡県直方市山部810－7）
- ウ 福岡県立糸島高等学校（福岡県糸島市前原南2－21－1）
- エ 福岡県立水産高等学校（福岡県福津市津屋崎4－46－14）

### (3) 出席委員（計11名）

望月聖子委員長、綱嶋洋一副委員長、  
田中洋次郎、細谷政幸、杉山信雄、相原しほ、青山圭一、小田貴久、脇礼子、  
小野寺慎一郎、添田勝の各委員

### (4) 随行者

小川副課長（議会局議事課）、清水主事（議会局議事課）、  
工藤副主幹（教育局総務室）

### (5) 行程

- 8月19日（月） 羽田空港～福岡空港～福岡県立久留米高等学校～福岡市内泊
- 8月20日（火） 福岡市内～福岡県立鞍手高等学校～福岡県立糸島高等学校  
～福岡市内泊
- 8月21日（水） 福岡市内～福岡県立水産高等学校～福岡空港～羽田空港

## 2 福岡県立久留米高等学校

### (1) 調査目的

福岡県立久留米高等学校では、普通科のほかに筑後地区の県立高校では唯一、英語科を設置し、英語力の向上及び英語を通して何を学ぶのかとの視点から、海外修学旅行やイングリッシュキャンプ、留学生との交流、アメリカ領事館訪問、英語スピーチコンテストや英語ディベート大会への参加など、英語教育に関する取組を多岐に渡り行っている。

そこで、福岡県立久留米高等学校を訪問し、特色ある英語教育の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

### (2) 福岡県立久留米高等学校出席者

福岡県立久留米高等学校校長、同教頭、同事務長、同英語科育成課主任ほか

### (3) 英語科説明会見学

同日開催されていた、中学生に向けた英語科説明会を静聴したところ、次の内容等

について説明があった。

当該説明会において、昨年度、福岡県の英語スピーチ・暗唱大会で優勝した生徒による約10分間にも及ぶスピーチを聞くことができた。

- ア 英語科の生徒数と構成
- イ カリキュラムについて
- ウ 進学実績について
- エ 普通科にはない、英語科独自の行事について
- オ 生徒による英語のモデルスピーチ

#### (4) 福岡県立久留米高等学校長挨拶

#### (5) 委員長挨拶



#### (6) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア 福岡県立久留米高等学校の概要について
- イ 英語科設置の経緯について
- ウ 英語科独自のカリキュラムについて

#### (7) 質疑応答

**質 疑** 今、英語科の40名が定員ということで、単純にどのぐらいの応募があるのか、倍率の辺りや、また、いろいろな英語クラス特有の授業がいくつかあるという説明を聞いたが、英検の合格が非常に率が高いなという感じで、それは授業の中でやっているのかという辺りと、福岡県のほうの教育委員会等も、どういう連携があるのか、英語コースに関して、支援や、例えば、姉妹都市とか、そういったものはいろいろあるのではないかと思ったが、その辺り、教えていただきたい。

**応 答** 1点目の倍率は、年によって違う。

福岡県では、学区によって受ける地域、居住地によって受ける場所が決められており、全部で13学区に分かれていて、当校の学区は、第8学区で、久留米市を中心とした筑後地区、久留米市周辺の学区構成になっている。普

通科は8学区からしか来れないが、英語科に関しては、筑後地区、大きく福岡県が北九州地区、福岡地区、筑後地区、筑豊地区と4地区に分かれるが、そちらの筑後地区の生徒に関しては、全員来られるようになっている。

競争率に関しては、年によって若干異なるが、1.2倍前後くらいから1.5の幅で動いている。英語科については、一時期少し人気下がったが、この3年ほど、復活して1.5、今、非常に人気のある学科になっている。

5年間ぐらいの平均を取ってみると、1.3 幾らかなと思う、2と3の間だったと思う。

英検に関しては、やはり英語に興味がある子が来ているが、その人たちが英検を持っているかどうかと言ったら、決してそうは言えないので、積極的に英検の受験を推奨している。校内で申込みをして、特に大学入試等、資格等は重視されているので、その一環として、当然、授業の中でも指導していくし、ネイティブスピーカーが本校に3人おり、そのうちの1人はNETとあって、日本語力もたけているため、基本的には普通業務にも当たる、校務分掌にもつくという形になっている。当然、2年生の担任にもなっており、基本的に生徒との面談や日常のホームルームを英語で行っている。そういった形で、生徒たちも徐々に英語が身についていくので、英検に関しては、基本的に県からの指導ではなく、独自の、校内の教育課程の中で鍛えていく形になっている。ただ、かなり工夫をして、今のような日頃の取組で段階的に上げていくということで、準1級も何人か数が、3年生になると、卒業する頃までには出てくるという形になっている。

県との連携は、特に姉妹校の指定とか、そういった県からのものはないが、一般的にALTは、多くても1校につき1名だが、本校はALTだけで2名、それにプラスして、NETという形で日本語力のたけた、専門性を有した職員を配置していただいているという形になる。

当然、いろいろ県のほうからも、何か行事があるときには、いろいろな協力は随時というような形で御連絡することもある。

また、県内に4校、英語科設置校があるが、英語科設置校が合同で行う研修があり、そういったところで、お互いに刺激し合いながら、あるいは協力し合いながら、それぞれの英語科の取組を推進しているという形になる。県内4地区、各地区に1校ずつ英語科の設置校があり、本校でも今年の11月、NETの先生に授業をしていただいて、県内のそれぞれの英語科設置校の先生方が見に来られるということもあり、そちらは県の主催になっている。

**質 疑** 英語科の40人の生徒の方は、転籍ができないというお話があった。一方で、部活動や学校の行事では、普通科の皆さんと交流があると思う。英語科があることによって、普通科の生徒に対して、どのような影響があるのかということをお聞きしたくて、例えば、英語力もそうだが、論弁力であったり、ディベート力であったり、何かプラスになっているものがあれば教えて

いただきたい。

**応 答** まず本日は、スピーチコンクール、校内のスピーチコンクールの話が出てきたが、それに普通科の生徒も参加をしている。また、英検等も実は、普通科からの受験生は多い。

英語科があり、英語を常に勉強している生徒たち、友達、仲間がいるということ自体が、やはり刺激になっていると思う。

部活動については、英語科の生徒たちもかなり積極的に参加をしているので、そこでの普通科との交流がある。英語科の子たちは、単に英語の、言葉としての英語の勉強だけではなく、異文化理解講座とか、先輩たちの講話とか、いろんな機会を通して、国際問題、社会課題と向き合うことが多い。もともと英語科は、英語の教科書・テキストの中で取り上げているテーマも、そういったものが伝統的に多いということもあって、英語の勉強が、単なる語学の勉強ではなくて、他文化を理解していくという点にもつながっていると思う。

英語科の生徒たちの進学先というのは、比較的、難関大学が多い。それは、いろいろな面接、口頭質問、あるいは小論文等に対しても、もともとの社会課題の意識が高いので、それに取り組むことで、さらに、よりチャレンジしていく気持ちがあるということ。もちろん、そういった英語科の子たちが頑張っているということが、普通科の子たちにとっても刺激になっている。

英語科は、1クラス 40 人しかいないが、やはり本校にとって、英語科があるということが中学生、地域に対して非常に大きなアピールになる。当校の生徒、英語科の生徒に憧れて、久留米高校を受けたという生徒も多く、自分は英語が得意ではないが、やはり身近で、英語科の先輩たち、格好よく見えるし、やはり生き生きと、いろいろなことにチャレンジする子が多いので、そういった意味では、英語科があるということのメリット、かなりあると思う。

**質 疑** 中学生向けの英語科説明会の中で、理科系を希望する生徒さんは入学を推奨しないという説明があったが、英語科というのは、例えば、商業科とか工業科と同じように、専門科目何単位、そういうふうに、もう決められているのか。

**応 答** 専門学科の英語科なので、専門学科を学ぶ以上、教育課程条例で何単位以上と設定されていると思う。

**質 疑** それによって、なかなか時間を取れない科目というのも当然出てくると思うが、どの辺に影響が出てくるのか。やはり理科系か。

**応 答** やはり一番よくあるのは、理科系の単位数が少ないということである。専門科目を全部で 13 程度設定しているが、そうなってくると、どうしても理

系の科目、大学受験を考えると、絶対受けられないというわけではないが、やはり厳しい。あるいは、理系の中に履修しない科目が出てくるので、そういった意味で、推奨しないという言い方をしている。

ただ、卒業生の中で、全く理系に行かないかといえばそうではなくて、大学に行った後に、例えば、職業として、理系のところに入っていくというのが結構あり、やはり身につけた英語力や、あるいは国際的な視点で、そういったものを生かしながら、別の分野で活躍しているという卒業生は結構いる。



#### (8) 副委員長挨拶



#### (9) 調査結果

- 福岡県立久留米高等学校は、普通科と英語科の併設校で、普通科は1学年約200名（5クラス）、英語科は1学年約40名（1クラス）で構成されているとのことであった。
- 英語科は、平成6年に、それまであった英語コースを廃して新設され、以来30年、筑後地区の拠点校として進学校の役割を果たしながら、次のような独自の教育活動を実践しているとのことであった。
  - ・ 一般的に、ALTの配置は1校につき1名となっているが、同校ではALT 2名のほか、NET 1名を配置し、英語のネイティブスピーカー3名といった体制で、毎日、英語に触れられる環境を整えている。また、NETは日本語力

にもたけており、2年生の担任となり、面談やホームルームを英語で行っている。

- ・ 専門科目として、総合英語、ディベート・ディスカッション、エッセイライティング、ビジネスコミュニケーション等を設置している。
  - ・ ビジネスコミュニケーションでは、TOEICのテキストを使用しながらオンライン演習を行い、高校3年間で2回、TOEICの受験をするようにカリキュラムを組んでいる。
  - ・ 毎年、1年生の3月に行うイングリッシュキャンプでは、1年間調べた社会課題等について、班ごとに発表する場を設けている。
  - ・ 卒業生講話を行っており、今年度はフランス・パリとZoomでつなぎ、OECD経済協力開発機構に勤務している卒業生が講演を行った。
  - ・ 異文化理解講座として、JICAや海外出身の方の講演を聞き、世界で起きていることや、自らが卒業後にできることについて学ぶ機会を設けている。
  - ・ 大学を訪問し、実際に大学レベルの講義を受ける機会を設けている。
  - ・ 毎年、海外からの留学生を受け入れている。
- 生徒は、次のような校外での体験活動にも積極的に参加しているとのことであった。
- ・ 福岡県が在福岡米国領事館と連携し、スタンフォード大学が日本の高校生向けに実践する英語教育プログラム「Stanford e-FUKUOKA」の受講生に、同校の生徒が3年連続で選出され、実際にスタンフォード大学でプレゼンテーション等を行った。
  - ・ 7月に行われた九州大学主催のディベート大会では、同校のチームが2年連続で準優勝となった。
  - ・ 校内の英語スピーチ・暗唱大会の上位入賞者は、県大会に参加し、昨年度は同校の生徒が優勝となった。
- 同校では、言葉としての英語を学ぶだけではなく、英語のテキストやディベート、異文化交流会等のカリキュラムの中で、社会課題等のテーマを扱うことを通して、国際問題や社会課題に対する意識が高まり、結果的に生徒一人一人の進路実現につながっているとのことであった。
- これら福岡県立久留米高等学校における特色ある英語教育に関する取組は、本県の英語力向上の推進に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

### 3 福岡県立鞍手高等学校

#### (1) 調査目的

福岡県立鞍手高等学校は、平成24年度から、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールに指定されており、現在、第Ⅲ期（令和4年度から8年度まで）の取組を推進している。

第Ⅲ期の取組では、研究開発課題として「日本近代化牽引の地で環境・エネルギーの歴史と未来を探求する「鞍高STEAM」」を掲げ、旧産炭地という特性を活かして、様々な分野の視点から「環境・エネルギー」を中心テーマとした探究活動

に取り組むことで、創造的思考力や批判的思考力等の育成を目指している。

そこで、福岡県立鞍手高等学校を訪問し、STEAM教育や理数教育の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

## (2) 福岡県立鞍手高等学校出席者

福岡県立鞍手高等学校校長、同副校長、同教頭、同特色化（SSH）推進課長ほか

## (3) 福岡県立鞍手高等学校校長挨拶

## (4) 委員長挨拶



## (5) 概要説明

次の内容等について説明があった。

ア 学科編成について

イ スーパーサイエンスハイスクールの研究開発課題について

ウ スーパーサイエンスハイスクールの取組における三つの柱について

(ア) STEAM探究プログラムの開発について

(イ) 外部連携による学びの充実と生徒による発信と交流について

(ウ) 学びの開発ルーブリックを用いた指導と評価の一体化による授業改善について

## (6) 授業見学

## (7) 質疑応答

**質 疑** 学びの開発ルーブリックは、おそらく社会人になっても、すごく大事な観点ではないかと思っている。

これがⅢ期の計画から始まり、他の教科等にも、このルーブリックは取り入れられているという話だが、他の教科も含めて、具体的な成果の実感というのは、どのようなものがあるのか。

**応 答** 実感というところに至るところまでは、まだそこまでは出てきていないというのが正直なところである。学びの開発ルーブリックを用いた指導と評価の一体化による授業改善は、2年目になるが、1年目に少し課題として出て



きたのは、評価の観点は今、「知識技能」、「思考判断表現」、「学びに向かう力」と三つあるが、「学びに向かう力」の教員の評価と生徒の自己評価のマッチングが、非常に悪いというところが出てきた。相関係数を調べると、正の相関が優位に出ているところが少なかった。それを全体の間でも先生方等にお話しして、ここが少し一致しないという課題について、各教科の教員がそれぞれ、いろいろ考えて実施したと思う。その結果、2年目では、三つ目の項目の正の相関が出てくるところが少し増えてきたというようなどころはある。

数字を上げるのが目的というよりも、数字が低いということ認識することによって、先生方が、その評価の仕方や授業の仕方を工夫するようになったというようなどころは、少しずつ出てきているというふうに思う。

**質 疑** 例えば、他のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）、県内でも県外でも構わないが、こういう取組の共有はされているのか。

**応 答** こういう研究、まず報告書、これは必ず学校ホームページに上げるようになっていて、特に、近隣のSSH校には冊子も送ったりして、お互いにやり取りをしている。

それから、全国の担当者が集まっての交流会が年に1回あったり、あるいは、九州沖縄地区での交流会も年に1回、あとは、県内のSSH校が本校ともう一つ、城南高校さんだが、この2校は、SSHコンソーシアムを結成して、年に2回は会合を行ったりして、お互いの教材の共有であったりとか、そういった取組をしているところである。

**質 疑** 教育という観点もそうだが、このようなマネジメントが学校の中に取り入れられているのはすばらしいなと個人的に思っている。一方で、今、先生方の多忙化ということが結構、全体的に課題になってきたが、こういう新しい取組をやるということで、結構、運営上、課題があるのではないかなという気がしているが、この辺りをどう捉えていて、そこに対して、どうした対策をされているかというところを伺いたい。

**応 答** まず、このルーブリックをつくるのは、結構、大変だと思うが、実は、自動生成できるようにしている。評価項目を大方決めると、それで5段階の文章を自動生成するようなプログラムをつくって、それを先生方に使ってもらうことで、先生方の負担感、これは教員のアンケートもしたが、軽減にはなっているというような評価はもらっている。

それと、生徒にこれをさせるためには、ネット上のGoogleフォームを使うので、先生方がその集計にタッチすることは一切ない。

Googleフォームも、先生方はエクセルでこれをつくるので、それから自動的にGoogleフォームができるようなマクロもつくった。

それで、できるところはできるだけ自動的にやって、業務の効率化を図る

うという取組はやっている。

**質 疑** 表示するというところの手間は今、伺ったとおりだが、それをフィードバックすることについては、時間としてはどれくらいかかるのか。

**応 答** 時間としては、この表を作るというところでフィードバックをして、あとはもう読んでいただくといったところである。職員研修会は、毎年必ず学期ごとに、本校は昔からやっていたので、その中で少しお話をさせていただくということで、プラスアルファの時間がそんなに増えたというような感じではやっていないつもりである。

**質 疑** 集まってくる生徒さんの学力とかにもよるだろうし、先生方のスキルも、いろいろばらつきがあると思うが、この仕組みは、その項目自体は御校のここまでのものではなかったとしても、もう少し簡単なものも含めて、すごくいい仕組みだと思う。こういうのは横展開で、県下全体に広がっていくとすごくいいと思う。

**応 答** ぜひこれで成果を出して、広めていければとは思っている。

**質 疑** 今回の、この課題の研究とかというところが、通常授業でもテキスト等で取り組んでいるというところがあったが、実際、課題研究をしたり、こういう論文を仕上げていくというのは、探究の時間のみでやられているのか。

**応 答** ほぼ探究の時間のみである。もちろん生徒は持ち帰って自宅学習でやるが、学校内でやるのは探究の時間が中心になる。ただ、理数科と人間文化コースは2年生で週に2時間あるが、普通科は週1時間しか確保できていない。時間がやはり足りないというところもあるので、秋とか10月ぐらいに、テーマも決まってやるのが煮詰まってきたぐらいのときに、例えば、3時間目から4時間目までの半日ぐらいを全部その時間に充てる日、それをリサーチデーと名づけているが、そういう日を設定して、少しまとまった時間も年に1、2回用意している。あとは、夏休みとかの補充授業を午前中やっているが、英数国で1コマ自学の時間となっている。その自学の時間を何時間か、この探究のための時間に割り当てたり、そういったことはやっている。

また、学校設定科目も起こし、データサイエンスのようなこと、従来の数学ⅠやⅡの計画でやれないようなところも起こして、認可いただいて、授業の中でも取り入れているところではある。このように、人間文化コースの中でも学校設定科目があつて、そういったところでも、従来、対応できないところもやっているところである。

**質 疑** こういう研究成果というのは、例えば、これから先の進学、入試のところでは、学外研究とか、AO入試とかというところには反映されてくるものか。

**応 答** 過去にもSSHの取組で、この課題研究で自分たちが研究した内容のプレゼンテーションを使つての、いわゆる総合型入試、昔のAO入試のところで合格していった生徒たちもいるし、こういう成果を生かしていつている子もいる。

もちろん推薦入試だったり、AO入試でそういうところを生かして、すごく直接的にこれが役に立っているところもあるが、本来、本校が目指しているのは、もちろんそういったところも目指しつつ、やはりこういう取組が本来、学力にもつながるべきだと考えているので、この取組がいわゆる一般入試にも波及していくべきではないかとは、ずっと思いながらやっている。

**質 疑** 自分でものを組み立てていくというのは、その先のことを視野にやっぴいかなきゃいけないと思うので、すごく、今、高校生が、さっき卒業生が、大学に行ったら全部自分で組み立てていかなきゃいけないよみたいな話をされていたが、そういうところに反映していくのには、とてもよい取組なのかなと思って、参考にさせていただければと思う。

**応 答** 補足だが、SDGsみらい甲子園で今年、全国で2番目から3番目の評価を頂いたが、それが、在日の外国籍の方が緊急事態、例えば、神奈川でも地震がこの前もあったし、台風が来たり、避難するとき、どうやって逃げていいか分からないというのをどうやって伝えるかという研究をして賞を頂いた。そういったものを、私たちがやりたいことをやったので、これで大学に行くんだと言ってそれを生かす子もいれば、先ほど言ったとおり、自信とやはり学力、本当にやりたいことを見つけて、また違う方向に行く子もいるので、そういった成果を持って、入試や、先につながっている子もいる。できるだけ多くつなげようという課題ではあるが、必ずしもそれに縛られないということも大事とは思ふ。

**質 疑** 御校への入学に対することだが、まず、御校を選ぼうとする中学生にとって、このSSHの取組というのはどのように映っているのか。論文を書くというのは、かなり高校生にとって、大きいテーマなんだろうなというふうに思っていて、中学生はどのように捉えているのかなという点が1点。

また、福岡県は、一般入試と推薦入学と、特色化選抜というのがあるようで、御校は推薦入学と、特色化選抜というのを実施しているということだが、まず、その推薦入学と特色化選抜の違いを教えてくださいというのと、特色化選抜において、例えば、そのSSH、皆様方の考えと同じ方向を向いている中学生をそこで選んでいるだとか、何か考え方があれば、お聞きしたい。

**応 答** 福岡県の独特な入試制度だと思う。推薦入試というのは、いわゆる推薦、中学校校長の推薦による入試であり、学校によって作文を課したり、面接のみ等いろいろあるが、本校は、作文・面接の中で中学校から推薦を受けた生

徒を選抜する。

その前に、特色化入試というのがあるが、これは中学校校長の許可は要らない。学校側、高校側が指定する、ある程度のいわゆる基準、例えば、評定値、部活動成績、そういう様々な学校独自の基準をクリアした生徒は、原則合格すると。ただし、定数があるので、その定数を超えた場合は選抜という形で、そういう大きな違いがあるが、これはまだ、県の中では、今から二つの入試を並列して継続するのか、もしくは、どちらかにフォーカスするのか、今、審議中である。

そのため、現状からいうと、もうそこで大体七、八割決まってしまう。となると、3月に実施する一般入試が、もう一、二割、中学校によっては1桁しか一般入試を受検する生徒がいないような状況である。これはなぜかという、一つは私学、私立高校の入試が1月、早いところは12月に実施されるので、もう今の中学校の生徒・保護者の意識としては、早く決めたいというものである。だから、それを今まで現状の公立高校入試に当てはめていったらもう遅いということになる。もう全部私学に引っこ抜かれている。その対策で始まったのが特色化入試ということになる。

だからもう、いちごっこで、これで少しずつ期日が上がって行って、もう2学期にも行ってしまおうような形になる。それでは駄目だろうということで、1回、私学協会の方と話をしながら、2月に戻したところである。なので、そういう形で生徒は、高校では3回の入試機会があるということである。

**質 疑** 中学生の捉え方は、いかがか。

**応 答** 実は、そこも課題で、研究が深まれば深まるほど、小学生・中学生にSSHはこんなだよと言うと、なんか難しそうという生徒の反応が多いのも事実である。やってきていることの自負はあるが、なかなか伝わっていないということも一方であり、例えば、小学生を呼んで実験教室を開いたりとか、中学校で出前授業を行って、理数科はこんな感じでやりますよ、人間文化コースであれば文化とか語学中心にやりますよとか、また、漠然と決まっていな子は普通科を4クラス用意していますので、自由に勉強できますよという感じでは周知はしているが、正直やはり、スーパーサイエンスハイスクールが県下2校に減ってしまい、全中学生に対しては、なかなかPRが難しいところではある。ただ一方では、意識の高い生徒については、自分で調べて、こういうことをやっているのだから私は入りたいという話をする者もいる。当校は特色化選抜に関しては、評定値、通知簿の数値を決めて、それ以上であれば受験できることとなっている。

それから、推薦入試については、勉強だけではなく、文武両道をうたう学校でもあるので、生徒会活動、部活動等で頑張る生徒も、勉強と同時に頑張る生徒、中学校の校長先生が背中を押していただける生徒を推薦入試で取っている。そのため、放送部が全国優勝したという話をしたが、体育部会、福

岡県は強い私学があるが、サッカーならサッカーとか、野球なら野球と特化した学校が多い中で、全運動部を得点化した数値を福岡県の中で毎年やっているが、昨年度は県下1位、最優秀校として表彰いただいているし、4年前にも1位、一昨年は3位だったが、文武両道をうたう学校でもあるので、そういうカテゴリーを分けている。あとは先ほど話をしたが、一般入試は、普通にやるので、大体、残り50ぐらいの枠をという感じで、ただ実際は、受けてくれる生徒さんはもう残っていないような状況。そこはまた苦労しているというところではある。

やはり、面接と作文のみの入試のとき、生徒によっては、目の前でコミュニケーションを発揮するのが苦手な子もいる。面接が苦手だとか。面接だけすると、またそういう子たちが敬遠するかもしれない。そこは悩ましいところなので、そういう子はあえて、一般を受けてくる子たちもいるのは事実である。

やはり中学校の生徒さんに対しては、興味・関心を少しでも与えられるような広報、そういうものが必要と思う。



#### (8) 副委員長挨拶



#### (9) 調査結果

- 福岡県立鞍手高等学校は、普通科と理数科の併設校で、普通科のうち1クラスは人間文化コースであり、全生徒が何かしらの形でスーパーサイエンスハイスク

ール（以下、SSH）の取組に関わっているとのことであった。

- 同校のSSHへの指定は、現在、Ⅲ期目の3年目であるが、平成27年から令和元年までの5年間は、スーパーグローバルハイスクールにも指定されており、その経験も生かして、第Ⅲ期からは「日本近代化牽引の地で環境・エネルギーの歴史と未来を探究する「鞍高STEAM」」をテーマに取組を行っているとのことであった。
- STEAM教育の「A」は、一般的にはArts（芸術）の意味だが、同校ではLiberal Artsと解釈し、人文科学や社会科学も含めており、「環境・エネルギー」というテーマを理系・文系の双方の観点から考えていくことを目指しているとのことであった。
- 取組を実施するために、次の三つの柱を用意しているとのことであった。
  - ・ 生徒が行う課題研究を中心としたSTEAM探究プログラムの開発。
  - ・ 主に生徒のコミュニケーション能力を高めるため、大学や企業、研究所等との外部連携による学びと生徒による発信・交流。
  - ・ 「学びの開発ルーブリック」を用いた、全教科で取り組む指導開発と資質能力の評価。
- 第1の柱である「STEAM探究プログラムの開発」については、次のとおりとのことであった。
  - ・ 同校では、生徒が、それぞれ自分が興味のあるテーマに沿って研究を行っており、この課題研究の取組は、理数科と人間文化コースについては、SSHに指定される前から30年近く行っている。
  - ・ 第Ⅲ期は、生徒の課題設定力の育成を一番の目標としており、1年生の1年間を使い、問題を見つけてどのように課題を設定していくかという基礎的な力を身につけた上で、2年生で課題研究を行っている。
  - ・ 課題設定力の育成に当たっては、1年生の「探究の時間」で様々な取組を行っているが、今年度は、その成果をまとめた「探究テキスト」と「探究ノート」を作成し、どの教員でも指導できることを目指して開発を進めている。また、「テーマの種」の時間を設け、教員が文理問わず自身の得意なテーマについて生徒に話し、生徒は、テーマに関する問いを三つ作成し、その研究方法を考えろという取組を行っている。
  - ・ 通常授業の中では、数理科学Ⅰ・Ⅱを学校設定科目として用意して、本来2年生で学ぶ統計的な内容を1年生で学べるようにし、データの処理についてあらかじめ学んでおくほか、数学の授業の中では、コンピューターを用いたデータ分析の実習も行っている。
  - ・ 取組の結果、生徒の課題設定力が向上し、2023年度SDGs QUESTみらい甲子園の全国交流会において、同校のチームが賞を受賞している。
- 第2の柱である「外部連携による学びの充実と生徒による発信・交流」については、次のとおりとのことであった。
  - ・ 大学の実験室を借りて研修をし、その内容に関する企業の見学を行っている。
  - ・ 種子島宇宙センターや東京、つくばに研修に行くことで進路への意識を高め

ている。

- ・ 福岡市科学館と連携し、一般の方々に対して、どのように科学について伝えていけるか等を学び、コミュニケーション力を高める取組をしている。
- 第3の柱である「全教科で取り組む指導開発と資質能力の評価」については、次のとおりとのことであった。
  - ・ 学びの開発ルーブリックを作成し、同校が育成を目指す「創造的思考力」「批判的思考力」「自主と協働の姿勢」を評価する10項目を設定し、各教科で生徒・教員双方が評価を行っている。
  - ・ 生徒による自己評価と教員による評価を集計して相関性を調べ、そのずれを可視化することによって、指導と評価を一体化し、授業改善を進めている。
- これら福岡県立鞍手高等学校におけるSSHの取組は、本県のSTEAM教育及び理数教育の推進に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

#### 4 福岡県立糸島高等学校

##### (1) 調査目的

福岡県立糸島高等学校は、ICTの活用に力を入れており、1人1台端末やGoogle for educationのアプリケーション、校内のLANを利用したライブストリーミング配信システムである「糸高チャンネル」等を利用した学習を行っている。

また、令和4年度には、文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」の指定校となり、学校ネットワークの再構築についての検討や、遠隔同時双方向型授業の実施、遠隔同時双方向型の通信を活用した韓国の高校との共同研究等、Society 5.0に対応する先端的な学びの実践研究に取り組んでいる。

そこで、福岡県立糸島高等学校を訪問し、学校教育におけるICTの利活用に関する取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

##### (2) 福岡県立糸島高等学校出席者

福岡県立糸島高等学校校長、同教頭、同教諭ほか

##### (3) 福岡県立糸島高等学校校長挨拶

##### (4) 委員長挨拶



## (5) 概要説明

次の内容等について説明があった。

- ア 福岡県立糸島高等学校の概要及び特色
- イ 創造的教育方法実践プログラムについて
  - (ア) 構想の概要
  - (イ) 令和4年度及び5年度の取組内容と課題について
  - (ウ) 令和6年度の取組内容について
- ウ ICTの活用事例について
  - (ア) 教育用コンピューターの配備
  - (イ) インターネット回線の状況
  - (ウ) 電子黒板の活用
- エ DXハイスクールについて

## (6) 質疑応答

**質 疑** これまで、時代の転換期というか、こうしたDXやプログラミングなど、お子さんたちの環境を変えていく上で、いろいろなチャレンジをしている姿というのはすごく刺激的でしたし、トライアンドエラーを繰り返しているのだなというのは、すごく素晴らしいと思っている。

その上で、まず、令和4年度、5年度と、いろいろな外部の民間の企業さんの仕組みを入れて、やはりここがちょっといまいちだねということで、導入ができなかったというのが2年ぐらい続いて、それで令和6年度に関しては、スタディサプリを入れてということで、常にトライをしながら、いろいろなことやっていると思うが、おそらく、一般的な学校は、そういうことも委縮してしまって、なかなか一歩目が踏み出せないというところもあるとは思う。

そうした中で、先生方も生徒の皆さんも、一つのシステムを使い始めて、今年やっと慣れてきたところで、やはり使えなかったということは、多分、皆さんにとっては、よいことではないのかなということもあると思う。

おそらく、これからいろいろな学校で、どういう民間企業のサービスをセレクトしていくのかということは、我々神奈川県の中でも、そこはすごく大きな課題になると思う。これまでのトライアンドエラー、まだ進行中だとは思いますが、そうした選定をしていく中で、先生方が今までの経験で、もっとこうすればよかったとか、今はそれをこう改善して、6年度にスタディサプリから、今後も継続的に持続可能なシステムの構築っていうことをしていく上で、どんなことを考えているのか、その辺りを伺いたい。

**応 答** 1番の選定の理由は、簡単で使いやすいというところになる。1番最初の令和4年度に入れたQureousが、いわゆる手書きができる、キーボード入力をしなくていいツールとなっている。今の子どもたちはフリック入力をしていて、パソコンができない子が非常に多いので、タッチペンで書けるということは非常にいいなと思って導入した。ただ、ネットワークの環境やホワイトリストなどシステム面で追いついていないというところで、また、コス



ト面もあり断念した。

2年目のMEXCBTについては、コスト面を重視した結果、煩雑で複雑な手順が多かったというところで、失敗した。

最終的な結論としては、スタディサプリがよいのではないかと思って、現在、導入している。ただ、中間地点になるが、状況としては、まず、生徒に試させて実践させる、自走ができるかどうかの段階となっている。

また、新しいシステムを導入すればするほど、生徒、現場は混乱する。どのように丁寧に普及をしていくのかということが、かなり学校や、その組織運営においても課題となっているので、現在、そちらについてもトライアンドエラーをしている。

**質 疑** 先生のようなスペシャリストは、多分どこの学校にもいらっしやらないかと思っていて、おそらく、これからこういう情報の教育を進めていく上で、特に、生まれたときからスマホを触っている世代の人たちに、これまでの技術・家庭の先生方が、突然、いわゆる情報ⅠだⅡだということを、文化庁のほうでそれが下りてきたところで、対応ができないという声をいろいろ聞く。

そういった中で、先生のような、例えば、教育現場ではなくても、どこの企業に行っても多分、今、先生のようなスキルを持っていらっしやる方は引く手あまたではないかと思う。それをしっかりと教育の現場の中で、そういったDX人材を採用して、その方たちをいかに、スキルを存分に発揮していただくかという、人を集めていくことは、結構これからすごく課題になると思う。

大卒での今の認識について、先生の御意見を伺いたいということと、これから県の教育委員会等も含めて、こういったDX人材を確保すること、あるいは、配置していく上での、何か所感があれば聞かせていただきたい。

**応 答** まず、情報の教員に関することを言うならば、情報Ⅰ・Ⅱがスタートしたが、こちらに関しては、今まで採用がなかった。ないとなると、他教科で一応、サブで情報を持っている方とかが教えていたという機会が多かったので、そこから福岡県では、6年前から採用を続け、大体、県下で情報採用が60人ぐらいいると思うので、大体、大規模校に配属が終わっていると思う。

ただ、県の方も教育センターも含めて、教員研修というのを定期的に行っているし、サブ免許で教えられる先生にも授業ができるようなプログラミング教材の提供であったり、そういったところは福岡県でも結構、潤沢にやってくださっているので、そこは情報交換等しながら、うまくやっていけばよいと思っている。

ただ、DXの人材やスキルに関しては、私も実は、スペシャリストというふうにおっしゃっていただいたが、専門というわけではなくて、一般的な情報工学を広く浅く勉強してこの現場に来たので、専門外がたくさんある。今

回の創造的教育方法実践プログラムの中にも専門外は幾らでもあるが、何かしらの壁にぶち当たったときに、そこで諦めるのではなく、自分が持っている人脈やアンテナ、私は学会にも参加しているので、そういったところで情報交換等、広く情報を集めることによって、詳しくないことも目的を達成できるレベルまで上げていく、もしくは、外部の企業の協力を得るなど、そういったところで、何かこなしているところがある。

やはり人材、すごく難しくて、情報の教員がすごく人気で、例えば、一般企業にいる人が来てくれるかという、多分ないと思う。給与的な差も含めて、今、いろいろ社会問題になっているが、待遇それから給料を含めて、こちらに来るかという、なかなか難しいと思うので、そうなってくると、情報の教育系の学部を出た人たちをいかに引き込んでいくかということが大事だと思うので、そうなってくるとトライアンドエラーだと思う。失敗してもいいから、何かそれが思い切ることができる環境をつくるということが大事かなというふうに思う。

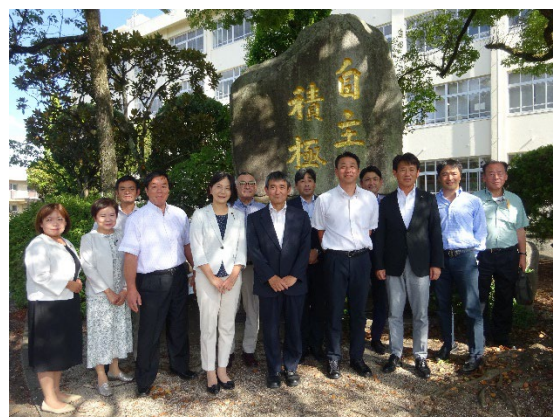
私も幸い、この学校に配属されたので、結構、先進的なことをずっとやっている学校なので、たくさん失敗もしたが、失敗しても、何かしらそこから得るものを次に生かせるというスタンスを出していけば、認めていただけるというふうに思っているので、そういった実践の場というところを、いくつつかつかつて、そこに素養がある先生を送り込んで、どんどんいろんなことを試してもらいながら、本人のスキルがどんどん上がって行って、結果的にDX人材というのがどんどん増えていくというふうに思っている。

**応 答** 補足すると、人材の確保というのは、県の中でも非常に大きな課題で、校長会の中でもすごく問題視しているところである。全国の校長会の会議でも必ず出るような話題になっている。

ただ、人材確保ができるのかというふうな部分に関しては、簡単なことではないので、実は、福岡県も福岡地区以外は人数が減って、だから学校規模が小さくなってきている。福岡地区は増えているので、9クラス、10クラスの規模があれば、1人の情報教諭を枠として確保することは、ある程度できるが、4クラス、5クラスの学校になると、授業時間数が少ないので、1人置くことができないという実情がある。

ただ、それでも今から非常に重要な役割を担う先生なので、確保は続けていただきながらも、多分、間に合わないのが現実なので、当校はリード的な役割を果たすべき状況にあるので、例えば今、遠隔授業もできるような状況が緩和されてきているので、1つの拠点校をつくる中で、他校でそれを受けて、授業が進められるような体制、例えば、北海道など離島が多い自治体については、もうすでに遠隔での授業というのが行われている。その辺りをできるだけ県内でも早く取り入れられるような体制をつくって、その専門的な知識が比較的高い教諭がいるところから発信できるような体制づくりを、ぜひ情報の教員同士の研修会の中で情報交換しながら、自分たちの中でやり方

を調べてほしいし、教育委員会の方にも、そういうやり方をぜひ取り入れてほしいという要望をしていこうという話をしているところである。



### (7) 福岡県立糸島高等学校郷土博物館の見学



### (8) 副委員長挨拶



### (9) 調査結果

- 福岡県立糸島高等学校は、創立 122 年目の普通科高校で、校内には、郷土博物館があり、高校に附属する博物館では、日本で唯一、文部科学省から指定を受けているとのことであった。
- 同校は、令和 4 年度から、文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進

事業（創造的教育方法実践プログラム）」の指定を受けており、「Society 5.0に対応した先端的な学び」をカリキュラム開発テーマとし、取組を行っているとのことであった。

- 同事業における構想の概要は次のとおりとのことであった。
  - ・ 感染症や災害の発生等の非常時においても学びを止めない学校ネットワークの検証と再構築の検討
  - ・ 遠隔同時双方向型教育プラットフォームを活用した教科等横断型カリキュラムの創造と実践
  - ・ 高校教員が国内外の研究者や人材と自由に協働できる連携協力体制の構築
- 令和4年度及び5年度の実績は次のとおりとのことであった。
  - ・ eラーニングについて、令和4年度はQ u r e o u s、令和5年度はM E X C B Tを利用して行ったが、福岡県が採用するセキュリティーシステムや金額等の理由から、継続的な利用には向かないことが分かった。
  - ・ 同校と福岡県立久留米高等学校をG o o g l e M e e tでつなぎ、英語のディスカッションを行うなど、遠隔同時双方向型授業を実施した。また、源氏物語を英訳し、日本語と英語双方の表現方法を学ぶなど、教科横断型授業を実施した。
  - ・ 進学意識を高めるため、看護・医療系クラスの生徒が看護・医療系の大学等を訪問した。
  - ・ E d T e c h企業をはじめとした様々な企業や大学等と連携して研修や発表等を行い、高い教育的効果が得られた取組もあったが、予算や生徒への負担等、継続的な利用については課題があることが分かった。また、韓国ソジョン高校とオンラインでの共同研究や、訪韓・来日交流を行い、研究要綱を高校生国際シンポジウムに出展したが、こちらも予算面で課題があることが分かった。
- 令和4年度及び5年度の実績を受けて、令和6年度に解決すべき課題は次のとおりとのことであった。
  - ・ eラーニングの導入と、その学習状況・学力の変化を研究すること。
  - ・ 令和4年度、5年度を参考にして、Z o o mやG o o g l e M e e tを活用した教科等横断型授業を実施し、教育課程の中で計画的に導入できるか検討すること。
  - ・ 外部企業との連携は、できる限り費用がかからないようにすること。
  - ・ 外部の人的資源とのコネクター人材・コーディネーター人材がいなくても連携・協力体制が構築できるプラットフォームを形成すること。
- 今年度は、次のような取組を行っているとのことであった。
  - ・ eラーニングについては、スタディサプリを導入し、効果の検証を行っている。また、学力変化のほかに、学習意欲や見えない学力、子供たちがどのように学習に取り組むのかの研究をするため、非認知能力の育成アプリケーションであるE d v P a t hを導入した。
  - ・ 国語の、原子力発電のメリット・デメリットを扱う教材について、株式会社東芝とZ o o mでつないで説明を聞き、公民と国語の教員も含めた3者の意見

を聞きながら話を深めていく、遠隔同時双方向かつ教科横断型の授業を実施した。

- ・ 外部企業との連携に当たっては、同校OBの棚田を用いて農業に関する研究活動を行うほか、文化祭などの学校行事と関連づけることで学校行事に係る予算から費用を捻出するなど、費用を抑えながら取り組めるよう努めている。
- 同校におけるICTの利活用の状況は次のとおりとのことであった。
  - ・ 福岡県では、1人1台端末としてChrome Bookが貸与されており、同校でも令和5年度から全校生徒に配付されている。
  - ・ 1人1台端末が実現される以前に、生徒の端末を学校ネットワークにつなげて授業に活用するBYODの取組を行ったところ、一定数つながらない端末があることや、ネットワークに入ると自動的にアップデートやダウンロードが始まり回線が混雑する等の課題があることが分かり、それを県に報告したことが、1人1台端末実現の一つのきっかけになった。
  - ・ 令和3年度に全教室に電子黒板が設置され、これらを活用して「糸校チャンネル」という校内ストリーミング配信を行っている。糸高チャンネルは、LIVE ARISERというアイ・オー・データ機器を使用して、外部の回線を使用することなく配信が可能であるため、コロナ禍で体育館に集まることができなかつた際には、終業式やイベント、講演等の様子を各教室から高画質で見ることができた。コロナが収束した後も、体育館の暑さ対策等のため、月に一、二回程度のペースで活用している。
- 同校は、DXハイスクールの採択校にもなっており、次のような取組を行っているとのことであった。
  - ・ 情報活用の授業を学校設定科目としており、今年度の2学期からは、ウェアラブル端末を活用した健康分析の授業を実施する。7月には、東京大学の教授による睡眠に関する講演会を遠隔で実施し、今後は、実際に端末を用いてデータ収集やレポート作成を行う。
  - ・ 外部団体連携や理系先進研究を実践するため、画像処理が可能なハイスペックコンピューターを購入し、外部団体と協力してプロジェクションマッピングを作成するほか、教育庁DX関連の企業の協力の下、インスタグラムのハッシュタグをテキストマイニングにより分析し、糸島の観光分析を行う等の授業を行っている。
- 日々の変化がめまぐるしいICTの分野において、トライアンドエラーを繰り返しながら、その効果を検証する福岡県立糸島高等学校の取組は、本県の学校教育におけるICT利活用に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

## 5 福岡県立水産高等学校

### (1) 調査目的

福岡県立水産高等学校は、福岡県唯一の水産高校であり、水産における専門分野として海洋科、食品流通科、アクアライフ科の3科7コースを設置している。また、通学困難であると認められた者が入寮できる寄宿舎「明友寮」を設置している。

同校の海洋科では、福岡、長崎、山口の3県で共同運航する実習船「海友丸」を利用した乗船実習を行っており、航海先のハワイの高校と国際交流も図っている。また、アクアライフ科では、海を豊かにすることを狙いとして、竹を活用した「プロジェクト-T」に取り組んでいる。

そこで、福岡県立水産高等学校を訪問し、特色ある水産教育に関する取組を当県唯一の水産高校である海洋科学高等学校と比較しながら調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

## (2) 福岡県立水産高等学校出席者

福岡県立水産高等学校校長、同副校長、同教頭ほか

## (3) 福岡県立水産高等学校校長挨拶

## (4) 委員長挨拶



## (5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

ア 学科とコース

イ 実習船「海友丸」について

ウ 課題研究及び総合実習について

## (6) 質疑応答

**質 疑** 神奈川県横須賀市に海洋科学高等学校があり、地元ということもあって視察に伺ったところ、こうした水産の技術や知識を学ぶということに対して、お子様方がなかなか興味を持ってくれないため、今、生徒を集めるのにすごく苦勞をしているというお話をお聞きした。その観点で、どういうことをやっているのか。今、ユーチューブを含めて、いろんなことをやられていると思うが、生徒の数の変遷や、これに対する対策など、どういったことをされているのかという辺りを伺いたい。

**応 答** 定員が40名掛ける4の160名。私が来て23年だが、2回だけ定員割れが起きており、それ以外は、1倍以上を確保している。ただ、最近、定員が割

れたことがあるので、まずは先生たち皆で、過去、入学者のいる中学校を中心に、中学校訪問をしている。

また、各中学校の説明会のようなもの、中学生対象の各ブロックでの説明会などがあるが、できる限りその説明会にも職員が行って、そしてブースを構えて説明する。これは夏休み等にもある。

そして、海友丸等を利用して、夏休み中に中学生向けの体験乗船を行っており、今回も中学生 120 名、保護者 120 名に、海友丸に乗船していただいた。

そういった、少しずつの地道な努力ではないかと思う。一人だけでもいいから、例えば、久留米から来ていただくとか、そういうふうにして一步一步大切にすることと、そして、私自身は、地元で愛される高校でなければいけないと思っている。地元の中学校からたくさん送り出してくれているが、やはり、そこからの送り出しがなければ、もしかしたらまた定員割れになってしまうかなというふうに思う。そのため、地元の漁協とタイアップしているとか、そういう地元の市民に、生徒指導面等を含めて愛される学校になることが必要だと思っている。

**質 疑** 長崎や他の県の水産高校と合同で海洋実習等をされているということであったが、他県との連携というのは、どういったことをやられているのか。

**応 答** 海友丸の中では、高校生の子たちは一緒に交わることはほぼない。3県で共同運航を始めたのは、純粋に3分の1の値段で運航の経費が済むというところで始まったが、それよりも、もう一歩進んで、共同で運航することで、船員さんたちの知識とか技術等が混ざり合って、よい相乗効果が出たということはある。

加えて、専攻科は、1年間通じて船に乗るので、山口・長崎の生徒さんたちに教える場面も出てくるので、専攻科としては、かなりよい学習ができる船になっていると思う。

**質 疑** 今、学校が抱える一番の課題というのはどの辺りか。

**応 答** やはり生徒募集が一番というふうに思う。それが一番だが、それ以外にも、今までの学びの中で、最新のいろいろなものを使って学習に取り入れていきたいと思っているが、なかなか施設も追いつかない部分等があり、教室等にはエアコンは入っているが、実習棟辺りにはエアコンはなくて、暑い日が続くと、生徒たちの健康面も非常に心配になる。

生徒に来てもらって初めて学校が成り立つので、どのように魅力を伝えていくかということが一番の課題である。中学校訪問が行われた際にも、やはり中学校段階で生徒たちが、水産という分野を選ぶというその選択肢が、頭の中にないので、中学校の先生方にできるだけ知っていただいて、そのために、過去には中学校の先生向けの体験実習、釣り体験とかダイビングの体験

とか、そういったものを企画したり、できる限り中学校の先生に水産分野を知っていただくというようなところに力を入れている。こういう学校もあるという一言を言ってもらっただけで、選択肢が一つ広がるので、そこをお願いしながら中学校を訪問している。

**質 疑** 生徒募集が一番大変ということで、やはり水産業に携わっている御家庭が多いのか、一サラリーマンの御家庭の、生徒さんが多いのか。私は、元々、親が水産業に携わっていたからというイメージであった。以前の視察で、おいしいイチゴを頂いた際、生徒たちが作って、すごくおいしいイチゴだったが、昔から農家の生まれ育ちではなくて、やはりそういうものを作ってみたという生徒さんが作ったイチゴであった。そういうことも含めて、背景的なものはあるか。

**応 答** やはり以前は後継者をということで、水産に関する保護者が目立っているところではありましたが、だんだんと、特に漁業の後継者に自分の子供をさせたいというような漁業者自体が減ってきて、やはり魚が獲れなくなってきたということもあって、自分の子供を水産業、漁師にさせたいというところは減っている。そのため、今、本校から卒業して、漁師の道というふうな、漁業の道に行く生徒たちというのは、全く関係ない生徒たちの方が多い。

一方で、船舶関係、食品加工、そういったところについては、保護者が、自分の親が船に乗っていたのでとか、また、卒業生が親になって、そして、その子供たちが本校に来てくれているという、よい循環が見えていることもある。

**質 疑** 入学するきっかけが、例えば貴校の先生方が、中学校に説明したところで初めてこの存在を知るのか、あるいは、元々、結構関心があって入ってくる生徒が多いのか、子供たちの入るきっかけをお聞きしたい。

また、先ほど観た動画で、太鼓を叩いている卒業生がいた。水産の分野以外に進んでいる生徒たちが少なからずいると思うが、その割合とか男女比をお伺いしたい。

**応 答** 入学している子たちは、遠くから来る子たちほど、自分でどこかで勉強して来ている子なので、非常に学力も高い子たちが来てくれている。

どうやって知るかというところは、うちの学校はよくテレビに出たりするので、広報がやはり大事だと思う。福岡県全域に知らせるために広報を充実させている。

卒業していく子たちは、正確な人数ではないが、ほとんどが水産系とか食品系とか、当校で勉強したことを利用したところに就職しようとする。

そして、別の道もあるということで、求人ももらうので、例えば、美容師を目指すとか、先ほどの動画にも出ていたが、特徴的な卒業生として、和太



鼓プレーヤーになったりしている。学校PR動画には、プロになっている子たちで、特徴ある子たちにインタビューで出てもらった。あの子たちの素敵なコメントだった、学ぶことが楽しいということや仲間を大切にするとか、とことん突き詰めるとか、そういうのを学校で学べたと言ってくれたので、PRになるとあって載せた。



#### (7) 校内施設見学



#### (8) 明友寮見学



#### (9) 副委員長挨拶



## (10) 調査結果

- 福岡県立水産高等学校は、昨年度、創立 70 周年を迎え、3 科 7 コースと専攻科を設置している県内唯一の水産高校とのことであった。
- 1 年次は、40 人 4 クラスで水産の基礎科目や共通科目を学び、2 年次から七つのコースに分かれるが、コースの内容は次のとおりとのことであった。
  - ・ 海洋科の航海コースでは、船に関する勉強や海図の取扱い方、操船等の実習を行っており、漁船だけでなく、商船への就職も増えてきている。また、機関コースでは、船舶の機関部船員や陸上の機械工場で働くことを目指して学んでおり、海技士や電気工事士等、様々な資格の取得が可能である。
  - ・ マリン技術コースでは、ダイビングのインストラクターになるため、様々なトレーニングを行っている。
  - ・ 食品流通科では、食のエキスパートを目指し、食品開発コースでは水産物の加工技術等を学び、また、流通科学コースでは商品 P R やマーケティング等について学び、販売実習等も行っている。
  - ・ アクアライフ科バイオ技術コースでは、海の生き物や海洋環境について学び、また、漁業経営コースでは、漁師に必要な技術と知識を学んでいる。
- 同校では、大型実習船「海友丸」を福岡県、長崎県、山口県の 3 県で共同運航しており、航海コースと機関コースの 2 年生は、3 か月に及ぶ乗船実習を行い、マグロはえ縄漁業をしながらハワイ沖まで航行し、現地のジェームズ・キャンベル高校の生徒と交流を行っているとのことであった。
- 同校では、課題研究や総合実習の項目で、各コース、次の様々な取組をしているとのことであった。
  - ・ マリン技術コースにおいて、海藻によるブルーカーボン創出の研究を行い、九州大学やトヨタ自動車九州と協力して、どのようなロープを使用すれば効果的に海藻を繁殖させることができるかを検討した。この研究は、令和 5 年度の課題研究発表会の九州大会で優勝し、全国大会に出場した。
  - ・ 地元のイカを使用した「イカときのこのアヒージョ缶詰」を開発し、令和 4 年度ふくおか 6 次化商品セレクションで奨励賞を受賞した。缶詰は、令和 5 年度以降の総合実習で定期的に製造し販売している。
  - ・ 山を整備し海を回復させるため、竹林の整備や魚礁づくりに 10 年以上取り組

んでいる。

- 地域とも連携を行っており、漁協と協力し、5年がかりでカキの養殖を成功させ、現在は、津屋崎千軒かきとして販売されているとのことであった。
- 同校では、生徒の募集を一番の課題とし、PR動画を作成してユーチューブやインスタグラムに載せたり、中学校を訪問するなどし、水産高校も進路の選択肢の一つとしてもらえるよう、広報に力を入れているとのことであった。
- これら福岡県立水産高等学校の特色ある水産教育の取組は、本県の水産教育の推進に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。